

## 射水市小杉駅周辺地区まちづくり基本構想（素案）に関する パブリック・コメントの実施結果について

- 1 実施期間  
令和3年2月1日(月)から2月16日(火)まで
- 2 閲覧を行った書類  
射水市小杉駅周辺地区まちづくり基本構想（素案）
- 3 書類の閲覧場所等
  - (1) 射水市ホームページ
  - (2) 窓口等での閲覧（6箇所）
    - ア 政策推進課
    - イ 各地区センター
    - ウ 中央図書館
- 4 寄せられたご意見等
  - (1) 意見等の提出者数 10名
  - (2) 意見の件数 24件
- 5 ご意見等の提出方法

窓口	2件
郵送	1件
FAX	5件
電子メール	17件
- 6 ご意見等の概要・ご意見等に対する考え方  
別紙のとおり

射水市小杉駅周辺地区まちづくり基本構想（素案）に対する意見等の概要及び考え方

NO.	案の対象箇所等	意見等の概要	意見等に対する考え方	修正
1	第2章 小杉駅周辺地区の現状と課題 1 本地区の現状 (1)-④地区別人口密度（P5）	本地区における地区別人口密度(H27)の凡例の配色は赤系ですが、赤色は危険性を想像させるため、落ち着いた青系・緑系配色にするほうが良い。	一般的な配色の考え方として、暖色と寒色を同一形状・面積で表現した場合、暖色は膨張、寒色は収縮のイメージを感じさせると言われている。そのことから、密度の高いものや数が多いものについては、メッシュマップを赤色の濃淡で表現するケースが多いため今回の配色とした。	無
2	第2章 小杉駅周辺地区の現状と課題 1 本地区の現状 (1)-⑦市全体の流入人口（P7）	「高岡市・氷見市から比較的多く流入している。」という説明は基準が曖昧である。	「本市の通勤・通学者の移動先、移動元ともに富山市、高岡市に大きく依存している。また、各市町村の対人口比で見ると高岡市、氷見市から比較的多く流入していることがわかる。」に修正する。	有
3	第2章 小杉駅周辺地区の現状と課題 2 市民等の意向 (3)小杉駅活性化に関する提言（P22）	小杉まちづくり協議会の概要及び位置づけ等の補足説明が必要である。	「小杉まちづくり協議会は、小杉地区にある有形無形の歴史的・文化的地域資源を活用し、地域のにぎわい創出に関する事業を行い、活気ある地域づくりと、愛着を感じられるまちづくりに寄与することを目的とする組織」を注釈として追記する。	有
4	第2章 小杉駅周辺地区の現状と課題 3本地区の特性と課題 (2)本地区のまちづくりの課題（P25）	「まちの価値や魅力を高め」という表現の「価値を高める」とは何を意味しているのか。また、どのような結果を期待しているのか。	まちの価値を高めるとは、商業・交通・福祉・自然・学び等の様々な面における充足度を高めることにより、相対的に同規模の都市よりも活気があり、住みやすいと評価されることと考える。また、その結果として、まちのにぎ	無

			わい創出により地区内人口の維持または増加を目指すものである。	
5	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針-1 まちづくりの将来像（P26、P27）	今後さらに人口が減少し、都市経営コストの圧縮が予想されるため、ステーションエリアの機能充実を最重要課題と位置付けて取り組んでほしい。	まちづくり方針に掲げ取り組んでいく。	無
6	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「1 魅力ある都市機能と人が集い行き交うステーションエリアの形成」（P28）	「主な取組の一例」に記載してある取組は抽象的であり、具体的な取組への記載とすべきである。また、「イメージ例」は他市の例ではなく、本取組の将来像をイラストで表現する方が良い。	基本構想はまちの将来像とその方針を示すものであり、今後、関係者との連携を深めながら事業展開を図ることとしており、本構想では取組例を挙げている。また、イメージ例についてはイメージを持ちやすくするため、特徴がある他都市の取組等の事例を示している。	無
7	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「1 魅力ある都市機能と人が集い行き交うステーションエリアの形成」（P28）	室内運動施設の大規模整備等、若者を惹きつける要素が必要である。	取組の一例として、参考にさせていただきます。	無
8	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「1 魅力ある都市機能と人が集い行き交うステーションエリアの形成」（P28）	駅から学校までの間にはコンビニもなく、立ち寄ることができるカフェもない。基本構想策定により、この環境を変えてほしい。	取組の一例として、参考にさせていただきます。	無
9	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「1 魅力ある都	駅が多機能複合化が計画されているが、用事がなくても駅周辺に行きたく	駅を多機能複合化した場合、大きな目的の一つと認識している。	無

	市機能と人が集い行き交うステーションエリアの形成」(P28)	なるような施設になれば良い。		
10	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「1 魅力ある都市機能と人が集い行き交うステーションエリアの形成」(P28)	リモート授業を受けたり、空いた時間に友達とおしゃべりしたり、そこで、小物や古着等のフリーマーケットができたリ、キッチンカーやフードデリバリー等の展開やイベントもできるような、多機能スペースを整備してほしい。	取組の一例として、参考にさせていただきます。	無
11	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「1 魅力ある都市機能と人が集い行き交うステーションエリアの形成」-文教ゾーンとしてのにぎわいの創出(P31)	県大生の半数以上は県外出身であり、県内学生でも通学が困難な学生はアルバイトに入る傾向があることから、空き家等を活用してシェアハウスの様な新しいコンセプトの協働生活の場を整備することを提案する。また、学生と地域の間を結ぶ「世話人」を確保することを併せて提案する。	学生で賑わう駅周辺エリアを目指す取組の一例として、参考にさせていただきます。	無
12	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「1 魅力ある都市機能と人が集い行き交うステーションエリアの形成」(P28)	日常的に「まち歩き」したくなる地域にするため、市、有識者、商工団体、企業、学生・住民等が参画する「小杉駅 1km 圏まち歩き市民会議(仮称)」のようなネットワーク組織があれば良い。	主体的にまちづくりに取り組む組織の一例として、参考にさせていただきます。	無
13	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「2 安全・快適で住み続けたい市街	国外の個人旅行者の長期滞在を図ることが重要であり、価格設定を抑えたシェアロジやユースホ	市街地環境の整備の一例として、参考にさせていただきます。	無

	地環境の整備」 (P32)	テルのような機能を設けた宿泊施設の整備を提案する。		
14	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「2安全・快適で住みたい市街地環境の整備」 - 「(2)安全・快適な住環境の整備」(P34)	市洪水ハザードマップで浸水区域に指定されていることから、まちづくり方針「2安全・快適で住みたい市街地環境の整備」に防災の観点の記載が必要である。	第3章まちづくり方針2 (2)「安全・快適な住環境の整備」中に、「災害に強いまちづくりの推進」の項目を追加する。	有
15	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「2安全・快適で住みたい市街地環境の整備」 - 「(2)安全・快適な住環境の整備」(P34)	空き家対策については、他市の事例も参考にして、早急に詳細な空き家の実態把握に努めてほしい。	5年に一度空き家実態把握調査を実施しており、令和3年度の実施を予定している。空き家の現状把握に努め、対処していく。	無
16	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「2安全・快適で住みたい市街地環境の整備」 - 「(2)安全・快適な住環境の整備」(P34)	小杉駅から半径1km圏内は、宅地造成を進められるよう市街化区域を見直すべきである。	まずは、既存の市街化区域内において人口を維持するための施策を検討していく。	無
17	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「3まち・ひと・ものをつなぐシームレスな交通ネットワークの形成」 - 「(1)交通ターミナルの整備とネットワークの強化」(P38)	学生等の若い世代や子育て世代が、日常の移動手段として公共交通を利用できるように、検討を重ねていく必要がある。	コミュニティバス路線の見直し等、随時検討を重ねていく。	無

18	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「3まち・ひと・ものをつなぐシェアードな交通ネットワークの形成」-「(1) 交通ターミナルの整備とネットワークの強化」(P38)	通学で学校のバスや公共のバスを利用したいが、時間が間に合わない場合があり、徒歩で通学している学生が多い。シェアサイクルがあれば、利用可能であり、休み時間にも利用できる。バスの自動運転化も含め、交通手段の多様化を進めてほしい。	取組の一例として、参考にさせていただきます。	無
19	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「4歴史・文化・自然を継承するまちづくり」(P41)	歴史や文化についてはまちづくりと切り離すべきである、行政は最低限の文化振興への貢献をし、それ以外については民間に任せるべきである。	P52「4-(1)歴史・文化の継承とまちなみの形成」の推進体制における行政の役割は、地域のサポートであると考えており、基本的には地域住民等が主体となってまちづくりに取り組むこととしている。	無
20	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「4歴史・文化・自然を継承するまちづくり」(P41)	観光船等の水上交通の検討について、下条川は堀が深く観光には適していない。	下条川の水辺を楽しむ多様な手法を検討していく。	無
21	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「5 「知」の拠点とともに創る次世代のまちづくり」(P44)	学生のまちづくりへの参加にあたって、学生・非学生ともに参加者が自分と異なる属性の参加者を自らの目的の手段としてのみ取り扱わない協働の仕方が重要である。	学生が参加するまちづくりの一例として、参考にさせていただきます。	無
22	第3章 小杉駅周辺地区の将来像と基本方針「5 「知」の拠点とともに創る次世代のまちづくり」(P44)	学生の活動の拠点となる「まちなかサテライト・キャンパス」の設置を提案する。まちなかに拠点を設けることで、学生と地域住民との多くの接点	学生が参加するまちづくりの一例として、参考にさせていただきます。	無

		を持たせることが、にぎわいづくりに重要である。		
23	第4章 小杉駅周辺地区の整備について 1土地利用ゾーニング「ゾーニング及びプロジェクト展開イメージ図」(P48)	イメージ図の凡例の表記も色分けして記載すれば、理解しやすいのではないか。	凡例の各項目に色分けしたマークを記載しており、理解しやすいように表記している。	無
24	第5章 基本構想の推進に向けて-「1事業手法」	②実現可能なものから段階的な事業展開を図っているが、ステーションエリアを核として優先して整備する等、事業計画に優先順位をつける必要がある。また、他の市町村での成功例を参考にすることが大切である。	構想の実現に向けた意見として、参考にさせていただく。	無